

第15回「DeCoと新NISA どっちがいいの？」

～2026年12月のiDeCo制度改正を踏まえて～

三菱UFJ信託銀行 菅谷 和宏

1. iDeCoと新NISA

本誌、第3回ではiDeCoの概要を、第7回では新NISA（2024年1月～）の概要を説明しました。では・・・どっちを使えばよいのでしょうか？

2. 拠出可能額（非課税額）

拠出可能額は、新NISAが年間「360万円」（成長投資枠とつみたて投資枠を利用）で、iDeCoは年間上限「24万円（2024年12月以降、企業年金に加入している場合の最大額）」です。しかし、2026年12月にiDeCoの拠出可能額が拡大され、月額6.2万円から企業年金の掛金相当額（企業型DCの事業主掛金とDBの掛金相当額の合計額）を引いた残額まで、拠出が可能となります。

また、新NISAは、最大拠出枠1,800万円の制限がありますが、iDeCoは最大拠出枠がありません。現在、iDeCoの加入可能年齢は20歳～65歳の国民年金被保険者ですが、2026年12月に一定の要件に該当すれば70歳まで加入できるようになります。仮にiDeCoの年間拠出可能額が48万円だとすると、50年間では、2,400万円まで拠出が可能となります。

<NISAキャラクター「つみたてワニサくん」>



<iDeCoキャラクター「イデコちゃん」>



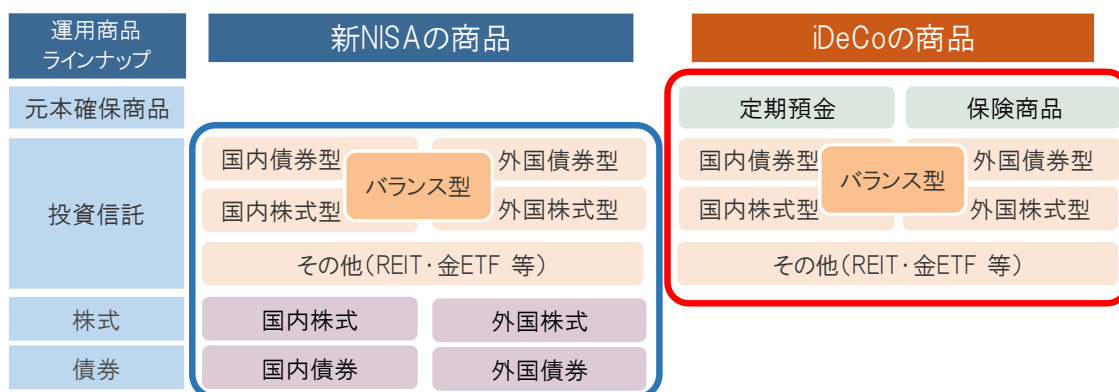
	新NISA			iDeCo		
	成長投資枠	つみたて投資枠		2026年11月まで	2026年12月～	
加入可能年齢	18歳以上の国内居住者		○	20歳～65歳の国民年金被保険者	一定の要件に該当すれば70歳まで加入可能	○
年間非課税枠	240万円	120万円	○	月額5.5万円-(企業型DC事業主掛金+DB掛金相当額)但し上限2万円	月額6.2万円-(企業型DC事業主掛金+DB掛金相当額)	△
最大拠出枠(非課税枠)	1800万円 (うち成長投資枠1200万円)		○	なし		○
引き出し可能	自由に引き出し可能		○	60歳まで引き出し不可 (60～75歳までの間で受給可能)		○
投資可能商品	上場株式、投資信託等	長期積立・分散投資に適し金融庁の基準を満たした投資信託	-	定期預金、保険商品、投資信託		-

3. 引き出し方法

新NISAは、資金が必要になった場合は、いつでも自由に引き出しが可能です。iDeCoは60歳になるまで引き出しが出来ません。そのため、数年後に資金が必要となることが分かっている場合は、新NISA「成長投資枠」を利用するのが良いでしょう。一方、老後資金の積み立てが目的なら、新NISA「つみたて投資枠」やiDeCoを利用することで、資産形成が行えます。

4. 運用可能な商品

新 NISA「成長投資枠」では、個別株式や個別債券の購入が可能です。新 NISA「つみたて投資枠」や iDeCo では個別株式や個別債券を購入することはできず、投資信託を購入することで株式や債券運用ができます。また、iDeCo は元本確保型商品として定期預金や保険商品の購入が可能です。新 NISA では定期預金や保険商品は購入できません。



5. 税制優遇メリット

iDeCo は拠出時に掛金全額が所得控除の対象となり、所得税が軽減できるメリットがあり、運用益は非課税、受給時も「公的年金等控除」「退職所得控除」の適用が可能です。

一方、新 NISA は、運用時と引き出し時は非課税ですが、拠出時の税制メリットがありませんので、一般的に iDeCo の方が、税制優遇メリットが大きいです。

					
		新NISA		iDeCo	
税制	拠出時	課税	×	非課税(拠出金全額が所得控除対象)	○
	運用時	非課税	○	非課税	○
	引き出し時	非課税	○	年金: 公的年金等控除が適用、一時金: 退職所得控除が適用	○

6. まとめ

手元に、ある程度の余裕資金がある場合は、新 NISA「成長投資枠」を利用するのが良いでしょう。一方、将来の資産を積み立てるのであれば、「つみたて投資枠」、さらに長期間に少額ずつ積み立てるのであれば「iDeCo」が適しています。iDeCo は、拠出時も含めて税制優遇メリットが長期にわたって受けられます。

また、余裕があれば、新 NISA と iDeCo の両方を利用することで、大きな税制優遇と将来の資産形成が可能となります。

なお、投資は投資者ご自身の判断と責任でお願いします。